

2024年1月17日

第24回関東ホルモンと癌研究会プログラム・抄録集の訂正のお知らせ

謹啓

平素より大変お世話になっております。第24回関東ホルモンと癌研究会プログラム・抄録集につきまして、掲載内容に誤りがございました。

運営事務局として謹んでお詫び申し上げますとともに、下記のように訂正させていただきます。

■P14 共催セミナー1 講演 山田顕光先生のご抄録

誤：抄録の後半文書の脱落

正：下記の後半文書の追記

一方、再発リスクが高い症例には、内分泌療法に加えて化学療法を併用することがある。化学療法の適否を決めるにあたり、腫瘍径、核・組織グレード、脈管侵襲、リンパ節転移といった従来の臨床病理学因子に加えて、腫瘍の多遺伝子アッセイによって再発リスクを数値化し、判断する時代となった。TAILOR-X 試験、RxPONDER 試験によって閉経前患者は閉経後患者と比べて化学療法による再発抑制効果が得られる症例が多いことが明らかになったが、閉経前乳癌に対する化学療法による再発抑制効果が、微小転移の抑制作用によるだけではなく化学療法誘発閉経によるものとする考えもあり、未だ結論がでていない。本セミナーでは閉経前乳癌の薬物療法に関するエビデンスを紐解き、現在計画中の研究についても紹介したい。

P14 は別紙のように差し替えさせていただき、またホームページ上のプログラム・抄録集（PDF版）も訂正いたしました。

この度はご講演をいただく山田顕光先生をはじめ皆様に多大なるご迷惑をお掛けしましたこと、重ねてお詫び申し上げます。第24回関東ホルモンと癌研究会の開催に際して、スタッフ一同十分に注意を払って参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

第24回関東ホルモンと癌研究会運営事務局

東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科内

事務局長 内海孝信